

休日の部活動の段階的な地域移行について

文部科学省は、令和5年度から段階的に休日の部活動の地域移行を進めていくことを発表しています。豊田市においても、令和5年度から市内全中学校で休日の部活動を段階的に地域に移行する方針が出されています。今後、本校においても、段階的な地域移行に向けて取り組んでいきます。

Q：部活動の地域移行をなぜ進めるのですか？

A：国は、中学校の部活動の問題として、特に以下の点を挙げています。

- ▲深刻な少子化。部員数の減少によって学校単位でのチーム編成ができない状況が生じている。持続可能性という面で厳しさを増している。
- ▲競技経験のない教師が指導せざるを得ない状況があり（専門性の欠如）、部活動指導によって休日にも指導を求められるなど業務負担が深刻な問題になっている。

国はこれらを踏まえ、持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの体験機会を確保するために、地域のスポーツ団体との連携、指導者や施設の確保等を進める方針を打ち出しました。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要

※公立中学校等における運動部活動を対象

意義と課題

○生徒のスポーツに親しむ機会を確保。自主的・主体的な参加による活動を通じ、責任感・連帯感を涵養、自主性の育成にも寄与。

○人間関係の構築、自己肯定感の向上、問題行動の抑制。信頼感・一体感の醸成。

課題

○近年、特に持続可能性という面で厳しさを増しており、中学校生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化が進行。＜生徒数：昭和61年589万人→令和3年296万人に半減。出生数：令和3年84万人＞

○競技経験のない教師が指導せざるを得なかったり、休日も含めた運動部活動の指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担。＜土日の部活動指導：平成18年度1時間6分→平成28年度2時間9分に倍増＞

○地域では、スポーツ団体や指導者等と学校との連携・協働が十分ではない。

これまでの対応

○運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月）：学校と地域が協働・融合した形で地域におけるスポーツ環境整備を進める

○学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について（令和2年9月）：令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図る

○中教審や国会等：「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨指摘

目指す

○少子化の中でも、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保。このことは、学校の働き方改革を推進し、学校教育の質も向上。

○スポーツは、自発的な参画を通して「楽しさ」「喜び」を感じること。自己実現、活力ある社会と絆の強い社会創り。部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出。

○地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保。（スポーツ団体等の組織化、指導者や施設の確保、複数種目等の活動も提供）

改革の方向性

○まずは、休日の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする

○目標時期：令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途
（合意形成や条件整備等のため更に時間を要する場合にも、地域の実情等に応じ可能な限り早期の実現を目指す）

○平日の運動部活動の地域移行は、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進

○地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等にも着実に取り組む

○地域のスポーツ団体等と学校との連携・協働の推進
※改革を推進するための「選択肢」を示し、「複数の道筋」があることや、「多様な方法」があることを強く意識

休日の運動部活動の地域移行に向けた改革集中期間

R5 R6 R7 R8

進捗状況を検証し、更に改革

・ガイドラインの改訂
・地方公共団体における推進計画の策定・実施
・公的な支援

今後、中学校の部活動は下記のように地域への移行が進みます。

- まずは、休日の部活動から段階的に地域移行していくことを基本とする。
- 休日の部活動の地域移行の目標時期は令和5年度の開始から令和7年度末。
- 平日の部活動の地域移行は休日の地域移行の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進。
- 地域におけるスポーツ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実。
- 地域のスポーツ団体等と学校との連携・協議の推進。

豊田市も、国の指針に沿って、令和3年度と4年度の2年間をかけて市内4中学校（竜神・保見・逢妻・上郷）でモデル実施を進めています。今年度からは、**市内全中学校で休日の部活動の段階的な地域移行が進んでいきます**。各学校は、地域と連携を図りながら**3年後（令和7年度末）を目標に**休日の部活動を学校から地域に移行します。

Q：中学校から部活動がなくなることでしょうか？

A： 休日の活動を段階的に教員から地域の指導者（地域部活動指導者）に移行していくということです。平日は今まで通り教員が指導にあたります。

地域部活動指導者が見つかった部から、徐々に教員以外が指導する形に変えていきます。
※ただし、今後、学習指導要領の改訂等に伴い、将来的に部活動の位置づけそのものが変わる可能性があります。

	平日の部活動	休日（土・日および祝日）の部活動
現状	教員（顧問）が指導	・地域部活動指導者が見つかった部は、教員と地域部活動指導者が一緒に指導 ・地域部活動指導者がいない部は教員が指導
移行後	教員（顧問）が指導	・地域部活動指導者が指導

- ・移行時期は部によって差が生じます。体制が整った部から段階的に移行します。
- ・指導者が見つかったも、当面の間は顧問と一緒に指導にあたり、徐々に休日の活動を地域部活動指導者に任せていきます。

Q：地域部活動指導者が見つからなかった部活はどうなるのですか？

A： 見つかるまでは、休日の活動が必要な部活動は、教員が指導することになります。

本校では、すでに 8 つの部活動で 14 人の地域部活動指導者が登録し、顧問と一緒に休日の技術指導にあたっています。

休日の部活動を地域部活動指導員による指導に完全移行するためには、各部活で 2 名以上の地域部活動指導者が必要です。

- 現在 1 名しか登録者がいない部については、引き続き適任者を探します。
- 現在、1 名もいない部（弓道、卓球、ソフトテニス、吹奏楽 ※休日に練習を行う部活動）は、顧問のネットワークや弓道連盟、卓球協会、テニス協会、地元の企業、地域への募集など、様々な方法で指導してくださる方を探します。保護者や地域の方で休日の部活動を指導していただける方がいらっしゃったら、ぜひ、学校にお声掛けください。
- 本校では、地域部活動指導員がすべての部に配置される目標を 2 年後と考えて進めます。

また、現在小学校に勤務している教員の中にも、中学校の部活動指導の経験が豊富で、指導のノウハウをもっている教員が多くいます。そうした教員が、地域部活動指導者に登録して休日に中学校の部活動に携わっている例が複数あります。市教委も、そうした教員対象に登録を呼びかけるなどして登録促進に取り組んでいます。本校も、今後、部活動コーディネーター（学校と地域を結ぶ役割の方）と連携し、地域にも広く呼びかけて適任者を見つけていきたいと考えています。

Q：地域部活動指導者には、どんな人になるのでしょうか？ボランティアですか？

A： その種目に対して高い技術を持ち、指導できる力をもった人が地域部活動指導者になります。部活動指導者として市教委が認めた方（18 歳以上）は、市から謝金が支給されます。週 1 日、1 回 3 時間で、1 時間当たり 1,830 円です。（※謝金については現段階）

Q：移行後の活動場所や活動時間はどうなりますか？

A： 当面の間は、現状と大きく変わることはないと考えています。現在中学校の部活動は「豊田市部活動ガイドライン」で平日の練習回数は週 3 回まで、休日は土日のどちらか 3 時間までと決められています。

地域移行が進んでも、当面は学校が活動場所となると予想されますし、活動の頻度が大きく変わることはないと考えています。特に、室内で行う部活動（吹奏楽や卓球など）は休日のカギの管理等、難しい課題があります。豊田市でも検討課題になっています。

Q：部活動には全員が参加するのですか？休日は地域の活動や習い事に参加したいのですが。

A： 本校は、現在も希望入部制です。全員入部制ではありません。部活動は授業と異なり、行わなければならない活動ではありません。教育課程外の活動として自主的に参加するものです。部活動への参加は、お子さんの意思とご家庭の判断になります。

種目によっては、学校外のクラブチームで練習している生徒のほうが多い部もあり、本校でも、他の中学校と合同チームを組んで大会に出場している部があります。今後、地域移行に伴い、平日のみの参加という選択肢も考えられます。学校としても検討し、休日の参加に関するアンケートを実施したいと考えています。

Q：休日練習でケガをした場合はどうなりますか？

A： 今まで通りスポーツ振興センターでの対応が可能です。地域部活動指導員が安全面も含めて安心して指導できるように、様々なことを整えていきます。部室のカギの開け閉め、活動記録表（平日と休日の連携をスムーズにするため）、応急セット、対応方法の共有など、学校としてしっかりと進めていきます。

Q：大会への引率や監督の仕事は誰がするのですか？指導者が異なると生徒が混乱しませんか？

A： 国が地域移行を進める方針を打ち出したことを受けて、大会主催者である各種連盟や競技団体が出場規約の変更を行っています。運動部では生徒引率や監督が外部指導者でも可能になりましたし、吹奏楽ではコンクールで地域部活動指導者（外部指導者）が指揮を振ることも可能になっています。

指導方針については、平日の指導と休日の指導の方針が違わないように配慮しながら、役割分担を適切に行い、連携を図って移行を進めていきます。より専門的な指導が受けられることや複数の指導者からいろいろな角度から指導してもらえることは、生徒にとってメリットが大きいと考えます。

● 豊田市の取組



豊田市は、中学校の休日の部活動の 地域移行を推進していきます

地域ぐるみで子どもたちが幅広くスポーツや文化芸術に親しむことができる環境を整えます。





「地域移行のメリットは？」

- ・地域の様々な人が関わることで、子どもたちを応援する人が増えていきます
- ・経験のある人から、幅広いニーズに応じた指導を受けることができます

○どのように地域移行をしていくの？

＜令和5～7年度＞

- ・休日の部活動について、段階的に地域の指導者が参加し指導していきます。
- ・地域の指導者がいない場合は、これまでどおり顧問が指導します。

＜令和8年度～＞

- ・地域が主体となった活動に全面移行の予定です。

※今後、有識者等で構成される協議会にて、よりよい活動のあり方を検討をしていきます。





もっと詳しく知りたい場合は？

2/11にシンポジウムを開催し、国の動向やモデル校の取組等を紹介しました。二次元コードから映像視聴できます。



【発行】豊田市教育委員会教育部 学校教育課

前例のない大きな改革であることから、学校としてもできることから取り組み、円滑な移行に努めていきたいと考えます。実際に取り組みながら、問題点や懸念材料が出てくと思いますが、その都度解決に向けて検討します。また、学校だけでは解決できないようなことは、市教委にも働きかけていきます。持続可能な仕組み作りに向けて、地域の皆様、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。